

図 画 工 作 科 学 習 指 導 案

令和4年5月25日(水) 第1校時 第4学年1組(第1図工室) 指導者 大塚 裕貴

【題 材】ウッド・ラボ(立体に表す)

考察	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
育成を目指す資質能力	- 木片の組合せ方を工夫する活動を通して、木片の形などの感じ方が変わることについて理解する力(共(1)ア) - 木材や両刃のこぎりを適切に扱い、切り方を工夫する力(A(2)イ)	- 木材や木片の形を基に木材の切り方や木片の組合せ方を試しながら自己の表したいことを考える力(A(1)イ) - 切った木片や複数の木片で組み合わせた形を基に、自己のイメージや思いをもつ力(共(1)イ)	つくりだす喜びを味わい、切り方や組合せ方を工夫しながら立体に表す活動を楽しむ態度
子どもの実態	- 第3学年の土粘土で立体に表す活動では、土粘土の形から、やわらかい感じやツルツルした感じなどが分かっている。 - 身の回りには、木材を加工したものがあることを知っている。	- 第3学年の土粘土で立体に表す活動では、表したいことに合わせて、糸を用いた切り方や土粘土同士の組合せ方を工夫し、できた形を何かに見立てて自分なりのイメージをもっている。 - 木材の切り方や木片の組合せ方によって、感じるイメージが異なることを意識していない。	- 楽しみながら意欲的に絵や立体、工作に表す活動に取り組める。 - 造形的な視点などを基にして友達の立体作品のよさや美しさを感じ取れないことがある。
価値	- 本題材は、木材を切ったり、木片を組み合わせたときにできた形を基に、自分のイメージや思いをもち、表したいことを考えて立体に表すものである。木材は土粘土と異なり、加工に時間がかかり、即時的に形を変化させることが難しいため、イメージや思いを形にする際に加工の仕方に見通しをもって、じっくりと立体に表す活動に取り組める。本題材で用いる杉の垂木は木材の中でも、比較的柔らかい。そのため、両刃のこぎりを用いて木材を切ることが容易になる。これにより、子どもが木材を切る際の抵抗感を減らすことができ、様々な切り方を試すことができる。木片を組み合わせる際には、両面テープを使用することで、木片と木片の着脱が容易であるため、イメージや思いを基に様々な組合せ方を試せる。 - 木片を組み合わせる位置を変えたり、木片を組み合わせた形を様々な角度から見たりすることにより、感じ方が変わること気付ける。 - 繰り返し木材を切ったり、木材を重ねて同じ形の木片に切ったりすることにより、両刃のこぎりを用いた切り方を工夫する力を高められる。	- 木材の面がはっきりしているため、カクカクした感じや尖っている感じからイメージや思いをもったり、具体的なものに見立てたりして自己の表したいことを考えられる。 - 木材の切り方や木片の組合せ方が容易であるため、自分なりのイメージや思いをもったり、広げたりできる。	- 木材の切り方や木片の組合せ方を繰り返し試すことにより、自分が表したいことに近付いたり、偶然できた形を楽しんだりできる。 - 互いの木片の形や組合せてできた形を見合うことにより、友達の作品のよさや美しさに気付ける。
見方・考え方	木材を切ったり、木片を組み合わせたときの感覚や活動を通して、木片の形や組合せてできた形などの造形的な視点で捉え、イメージや思いをもったり広げたりして、自分なりの意味や価値をつくること。		
今後の学習	5年「ハリガネアーキテクチャ」で針金の組合せ方や曲げ方を工夫して、立体に表す学習へと発展していく。		

指導と評価の計画

目標	両刃のこぎりを適切に扱って様々な木片をつくり、木片の形を生かして表すものを考え、木片の組合せ方を工夫してつくりたいものをつくる。			
評価 規準	(①知・技) 材を切ったり、木片を組み合わせたたりする際の感覚や活動を通して、木片の形の感じを理解するとともに切り方や組合せ方を工夫して活動している。 (②思・判・表) 自分の表したいことを基に木材の切り方を変えて切ったり、複数の木片の組合せ方を考えたりして活動している。 (③主体的態度) 木材を切って様々な形の木片をつくり出すことや複数の木片を組み合わせること、木片の形のよさや美しさを感じ取ることを楽しもうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は「記録に残す評価」
であ う	1	○様々な木片や木片が組み合わさった形を鑑賞し、製作への自分のイメージや思いをもつ。 学習のめあて 木の切り方と組合せ方を工夫して自分なりの形をつくろう	○木片の形や木片を組み合わせた形から、イメージや思いをもったり、広げたりできるように、切り方の異なる数種類の木片を用意し、感じたことを伝え合う機会を設定する。	◇木片の形や木片を組んだときの形のよさや美しさ、自分の表したいことについて記述している。 ＜ワークシート③＞
	1	○両刃のこぎりの刃を入れる向きや角度を考えながら木材を切り、試しの木片をつくる。	○両刃のこぎりを適切に扱えるように、両刃のこぎりの扱い方について助言や演示を行う。 ・刃には、縦引き（木目に合わせて切る）と横引き（木目を断つ向きに切るなど）があること ・柄の端を持つようにすること ・柄を握る力を強くしすぎないこと ・刃全体を使うこと ・のこぎりを引くときに切る力がはたらくこと	◇両刃のこぎりをういて木材を縦引きや横引きで切っている。 ＜行動・発言①＞
あら わす ・ ひろ げ る	3	○切り方を考えて、面白いと思う形の木片をつくる。	○木片の形から、イメージや思いが広がるように、面白い木片を紹介し合う機会を設定する。	◇両刃のこぎりの向きや角度を変えながら木材を切っている。 ＜行動①＞
	2	○木片の組合せ方を考えて、立体に表す。 （本時2／2時間目）	○表したいことを基に木片の形が選べるように、他者と木片を共有することや交換することのできる機会を設定する。	◇木片の形を選んだり、木片の組合せ方を変えたりしている。 ＜行動・作品②＞
ふり か え る	1	○木片の形や組み合わせた形の視点で鑑賞し、作品のよさや美しさを伝え合う。	○木片を組み合わせた形のよさや美しさに気付けるよう、つくったものを並べ、手に取って鑑賞する機会を設定する。	◇自他の作品を手にとったり、見比べたりしながら、木片の形や組み合わせた形のよさや美しさについて記述している。 ＜ワークシート③＞

本時の学習（7／8時間目）

ね ら い 木片を組み合わせて立体に表す活動を通して、木片の形や木片を組み合わせた形からイメージや思いを広げ、立体をつくることができる。
 評価項目 木片の形を選んだり、木片の組合せ方を変えたりしている。 <行動・作品②>

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
1 本時のめあてをつかむ。 ・前の時間は同じ形の木片を組み合わせて、四角い建物をつくっていたけれど、少し物足りない感じがするな。 ・木片のいろいろな組合せ方を試して、自分の好きな形を見つけていきたいな。前回つくった建物を高くしてみよう。（目的意識）	○組合せ方によって形から感じるイメージが変わることに気付き、様々な木片の組合せ方を試せるように、2つの木片の組合せ方を変えて提示し、感じるイメージの違いについて問いかける。 ○本時の活動の見通しがもてるように、前時の振り返りを想起させ、自己の表したいことに近付くために本時で取り組みたいことを問いかける。
めあて：木片の組合せ方を工夫して、自分が好きな立体をつくろう	
2 木片の組合せ方を考える。 ・階段の形に組み合わせていたら、角度によってはピラミッドみたいに見えてきたな。ピラミッドみたいな形の建物をつくってみよう。 ・友達の中にもきれいに並べて木片を組み合わせて作品をつくっている人がいるな。友達は縦に木片を積んでいたな。私も縦に積んでピラミッドを高くして塔みたいにしてみよう。 ・自分でつくった木片だと大きさが合わなくて、少しイメージとちがう感じになるな。友達がつくった木片で尖がっている形のものがあったから私の木片と交換してもらえるか聞いてみよう。 ・友達と交換した木片を私の作品に組み合わせてみたよ。でも、全部きれいに並べて組み合わせると、少しイメージと合わないな。少しだけバラバラに木片を組み合わせてみるところがあっても面白いかな。 ・タワーの土台の木片を少しバラバラに組み合わせてみようかな。 ・木片の組合せ方を工夫してピラミッドタワーができたよ。私はきれいな組合せ方と少しバラバラの組合せ方がまざっている形がアンバランスな感じで好きだな。（目的を達成した意識）	○様々な木片の形のよさや美しさに気付けるように、木片を組み合わせた形の角度を変えてみたり、木片の組合せ方を変えてみたりすることで感じるイメージの違いについて問いかける。 ○表したいことを基に木片の形や組合せ方からイメージや思いが広がるように、様々な木片の組合せ方を試せている子どもを紹介する。 ○新たな木片の形が必要になった子どもが自分の表したいことにより近付けるように、ペアの友達が切った不要な木片を自己の作品に生かしてもよいことを伝える。 ○イメージや思いが広がらず、活動が停滞している子どもが、木片の形から新たなイメージや思いをもてるように、表したいことを問いかけたり、木片の形から具体的なものに見立てたりするよう促す。 ○様々な組合せ方を試せていることを実感できるように、組合せ方と自分のイメージや思いを関連付けている児童の行為やつぶやきを共感的に受け止めたり、紹介したりする。
3 本時の学習の振り返りをする。 ・きれいな並べ方とバラバラの並べ方を組み合わせてみると面白い形の作品ができたよ。次の時間は鑑賞の時間だから工夫できたところや自分の好きな形について発表したいな。	○本時で取り組んだことから自分なりの意味や価値を自覚できるよう、木片の組合せ方の工夫を紹介し、称賛する。 ○次時の鑑賞活動への見通しがもてるように、これまでの活動から工夫できたことを問いかける。